

ヴァイオリニスト・五嶋みどりさんが来訪 万博基金助成に感謝の意を込め演奏を披露

世界的に活躍するヴァイオリニストの五嶋みどりさんが、6月7日、関西・大阪21世紀協会を訪れ、同行した海外の若手演奏家とともに演奏を披露しました。

協会は、日本万国博覧会記念基金事業として、五嶋さんが理事長を務める「認定NPO法人ミュージック・シェアリング」の活動を助成しており、五嶋さんは助成に対する感謝の意を表し、協会を来訪されました。五嶋さんたちは、協会がある中之島センタービルの会議室でドヴォルザークやメンデルスゾーンの弦楽四重奏曲を約1時間演奏し、協会職員や賛助会員など約100名が間近で聴き入りました。

ミュージック・シェアリングは、本物の音楽(完成度・芸術性の高い音楽、音楽家の人間性に触れる経験)を通して子どもたちの豊かな心を育てる活動を行っています。音楽家との交流を望む子どもたちや、さまざまな事情でコンサートホールへ足を運ぶ機会の少ない子どもたちのために、全国の学校、特別支援学校、児童施設、子ども病院などを訪問して演奏や楽器指導などを実施。アジアの国々でも



行われ、これまでにベトナム、カンボジア、インドネシア、モンゴル、ラオス、バングラデシュ、ミャンマーの学校や児童施設などで活動を行ってきました。また、若手演奏家の社会貢献活動の場としての側面も持ち、世界からオーディションで選ばれた若手演奏家3名と五嶋さんがアンサンブルを結成し、訪問ツアーを行っています。今回来訪したメンバーは、そうした世界トップレベルの演奏家たちです。

終演後、協会の堀井良股理事長は、「五嶋さんたちの本物の音楽を生で聴いた子どもたちは、この宝物のような経験を一生忘れることはない。ミュージック・シェアリングの活動は、非常に貴重で価値がある」と話し、五嶋さんたちの活動を讃えました。

五嶋みどり

11歳でニューヨーク・フィルとの共演でデビュー以来、世界のトップヴァイオリニストとして欧米でも最もポピュラーな音楽家。演奏活動に加え、20年以上日米を中心に地域密着型の社会貢献活動を展開し、音楽家による社会活動のモデルとして先導的役割を果たす。南カリフォルニア大学ソーントン音楽学校「ハイフェッツ・チェアー」兼特別教授。2007年より国連ピース・メッセンジャー。使用楽器は1734年作のガールネリ・デル・ジェス「エクス・フーベルマン」。

演奏中の五嶋みどりさん(右)



右から、五嶋みどりさん(ヴァイオリン)、ロビン・ボリンガーさん(ヴァイオリン)、マイケル・カツツさん(チェロ)、ウィリアム・フランプトンさん(ヴィオラ)

平成28(2016)年度助成事業のご紹介

平成28年度の日本万国博覧会記念基金事業では、国内外62事業に総額1億円の助成を決定しました。その中から今年4～6月に実施された助成事業のいくつかをご紹介します。

第4回 KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭

事業者：一般社団法人 KYOTOGRAPHIE

交付決定額：190万円

実施期間：2016年4月23日～5月22日

実施地：京都市内の寺社や町家、美術館など15会場

歴史的特色のある寺社や町家、個人邸宅や近代建築など15会場、国内外の精鋭写真家数十名が展覧会を同時開催しました。会場は作品に合ったかたちにデザインされ、日本の伝統工芸の職人技術や企業の最先端技術とのコラボレーションで、写真芸術の新しい見せ方を追求。さまざまな角度から写真の奥深さや豊かさを体感できるアートフェスティバルとなりました。国内外の多彩な分野からゲストを招き、個別にアドバイスを受けることができる交流イベントや、出展アーティストのトークイベントなども多数展開。期間中8万8,632人の来場者で賑わいました。



アルノ・ラファエル・ミンキネン「Fosters Pond」、1989年
©Arno Rafael Minkkinen courtesy PUG OSLO



ティエリー・ブエット
「生後9分の女の子」
2008年
©Thierry Bouët

能舞「呼子鳥」

事業者：談山神社呼子鳥の会

交付決定額：80万円

実施期間：2016年6月11日

実施地：談山神社 権殿(奈良県桜井市)

本公演は、藤原鎌足公を祀る談山神社で新作の能舞「呼子鳥(よぶこどり)」を披露することで、同社が能楽発祥の地であることを世に広め、伝統芸能である能楽の認知度を高めようと開催されました。狂言方の男性1名以外は、シテ方、鼓、笛などをすべて女性が演じる珍しいもので、会場の権殿は130名の入場者で満員となりました。ちなみに談山神社の社号は、中大兄皇子(後の天智天皇)と中臣鎌子(後の藤原鎌足)が多武峰(とうのみね)の山中で大化の改新(645年)の談合を行い、この山が「談(かたら)い山」と呼ばれたことにちなむといわれています。



「呼子鳥」の公演風景 (写真提供:奈良新聞社)



談山神社 (写真提供:倭写真資料)

東京藝術大学アフガニスタン特別企画展 素心 バーミヤン大仏天井壁画～流出文化財とともに～

事業者：東京藝術大学アフガニスタン特別企画展実行委員会

交付決定額：250万円

実施期間：2016年4月12日～6月19日

実施地：東京藝術大学 大学美術館 陳列館

アフガニスタン内戦の混乱で海外に流出した文化財87点と共に、過激派組織によって破壊された天井壁画「天翔る太陽神」を、東京藝大が3DCGによるデジタル画像処理技術と人の手による質感の再現・彩色というアナログ技術を融合し、原寸大に3次元に復元して公開しました。アフガニスタン政府の閣僚級要人を招聘し、「文化財難民の母国返還式」も執行。期間中に開催された伊勢志摩サミット会場にもこの天井壁画の縮小版が展示され、各国の首脳が観覧しました。これらのニュースは新聞やテレビで報道され、期間中の入館者は約5万6,000人にのぼりました。



安倍総理大臣訪問の様子



展示会場1階風景